

決算説明会

2019年3月期 第1四半期

ミネベアミツミ株式会社

2018年8月3日

売上高は第1四半期として過去最高

[IFRS]

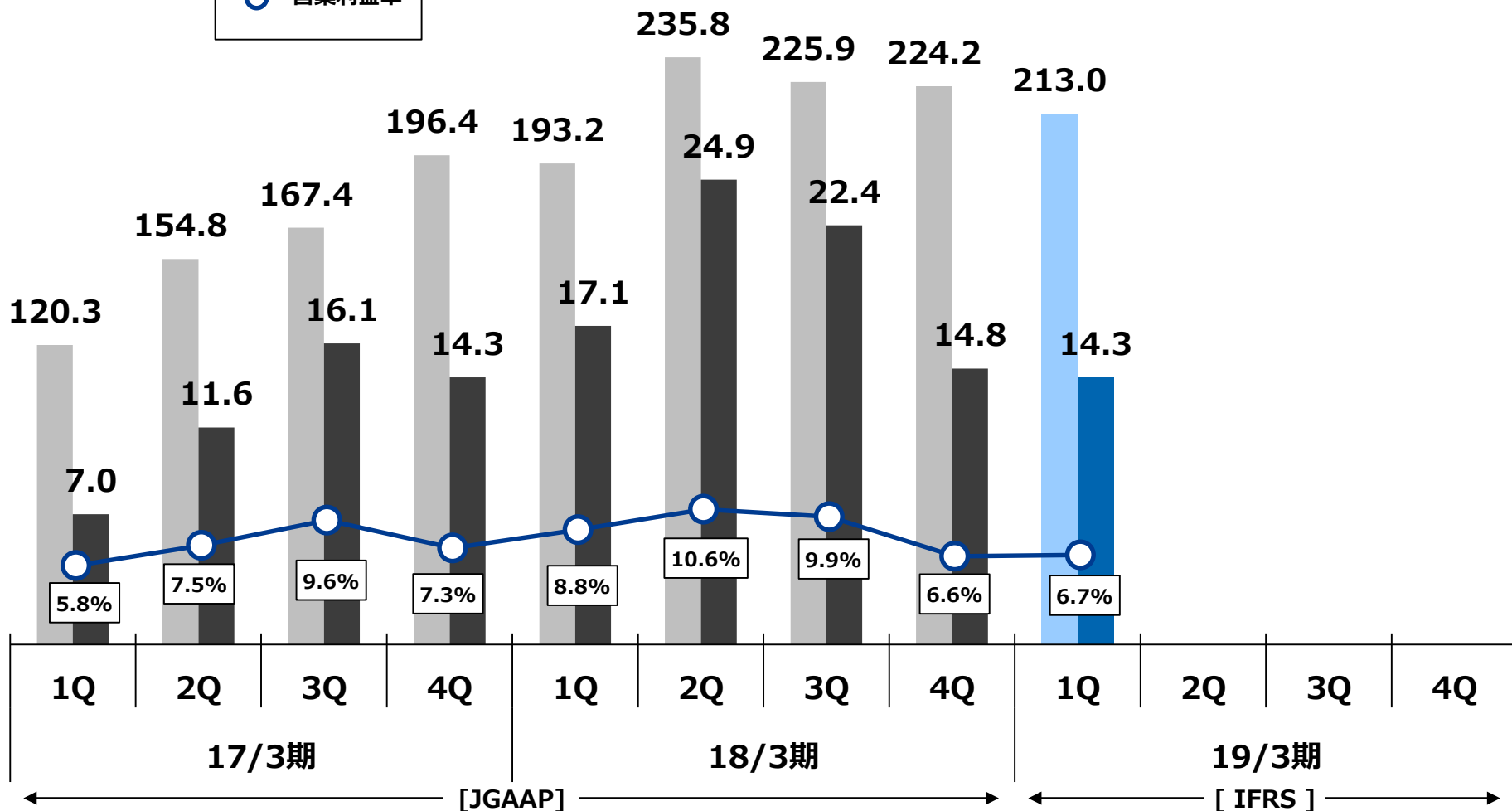
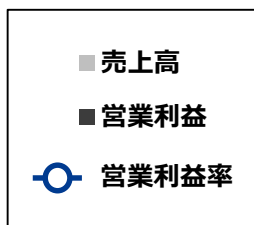
(百万円)	2018年3月期		2019年3月期	前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	1Q	4Q	1Q		
売上高	195,069	224,246	213,038	+9.2%	-5.0%
営業利益	16,698	6,453	14,291	-14.4%	2.2倍
税引前利益	16,176	5,497	14,170	-12.4%	2.6倍
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	12,603	1,814	10,886	-13.6%	6.0倍
基本的1株当たり 四半期利益 (円)	29.77	4.44	25.95	-12.8%	5.8倍

為替レート	18/3期1Q	18/3期4Q	19/3期1Q
US\$	111.48円	109.72円	108.10円
ユーロ	121.53円	133.77円	129.88円
タイバーツ	3.24円	3.45円	3.42円
人民元	16.18円	17.16円	17.02円

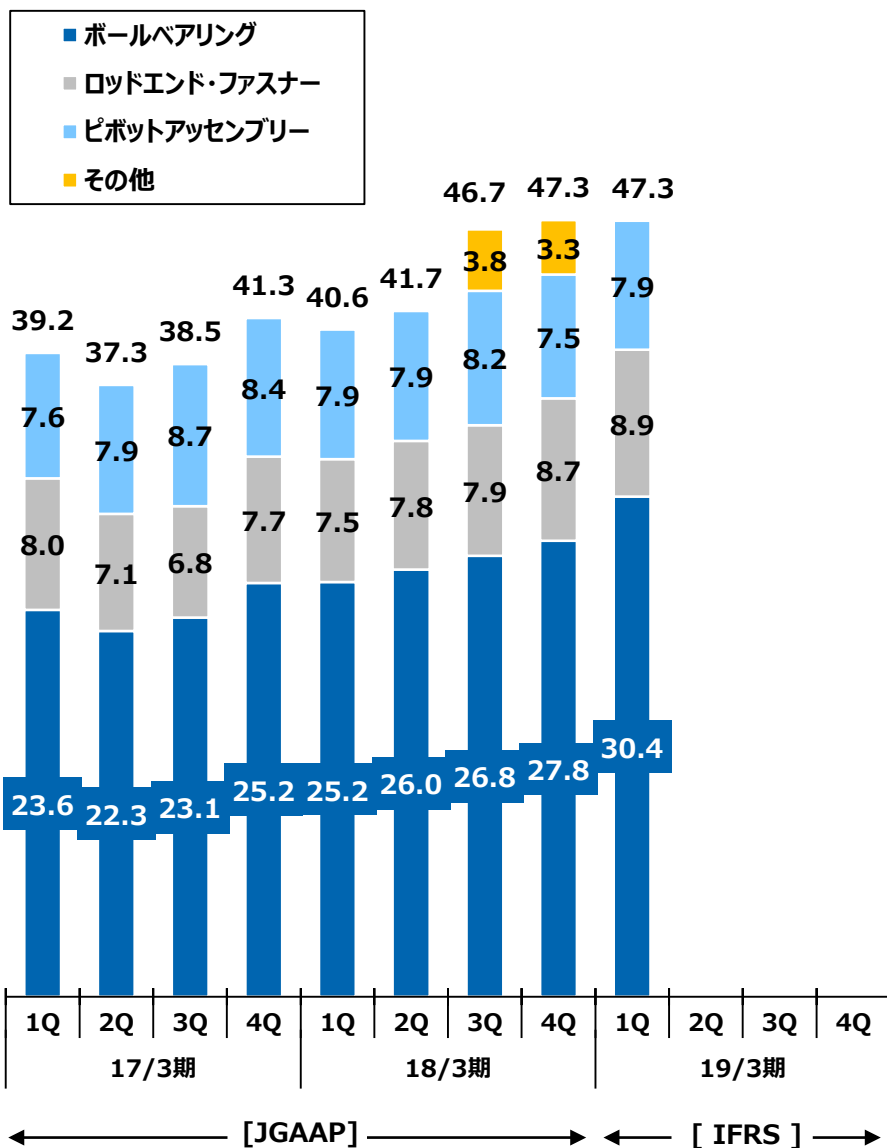
売上高、営業利益、営業利益率

18/3期以前はJGAAP

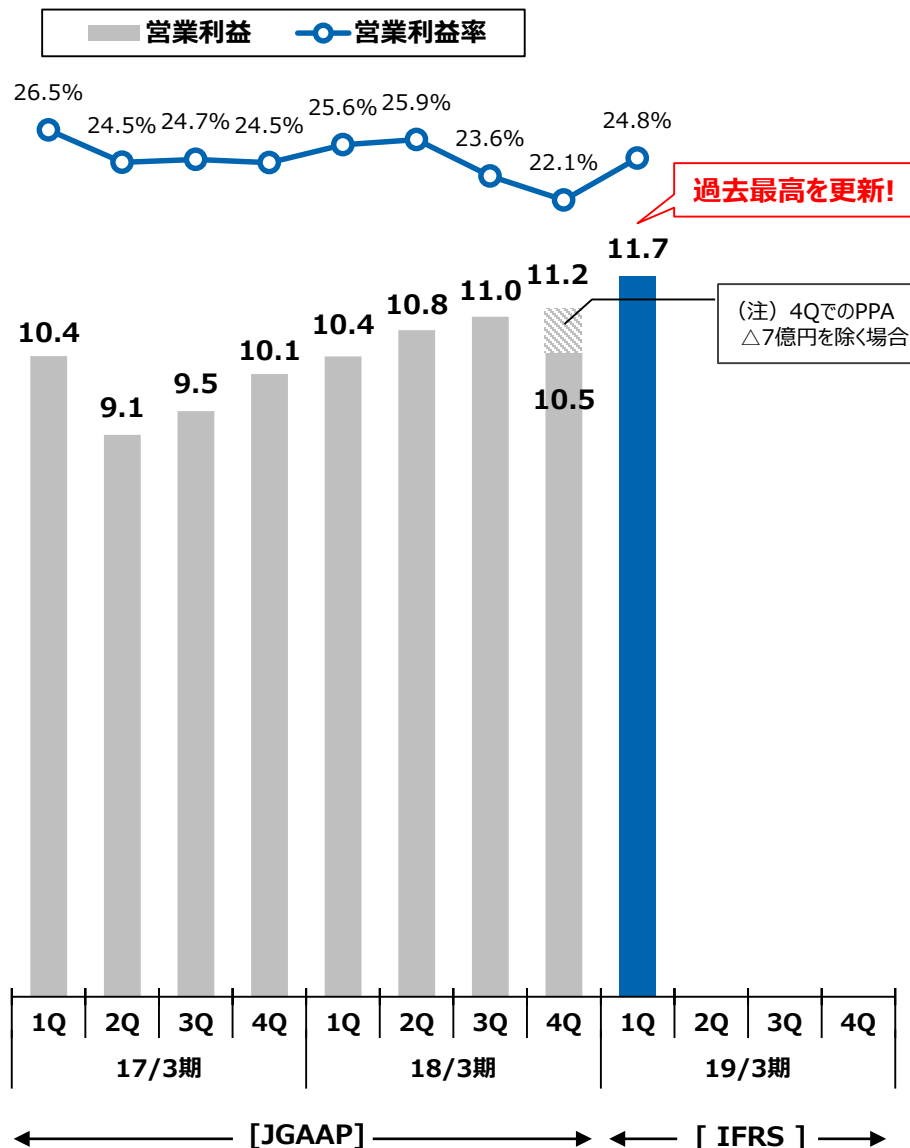
(10億円)



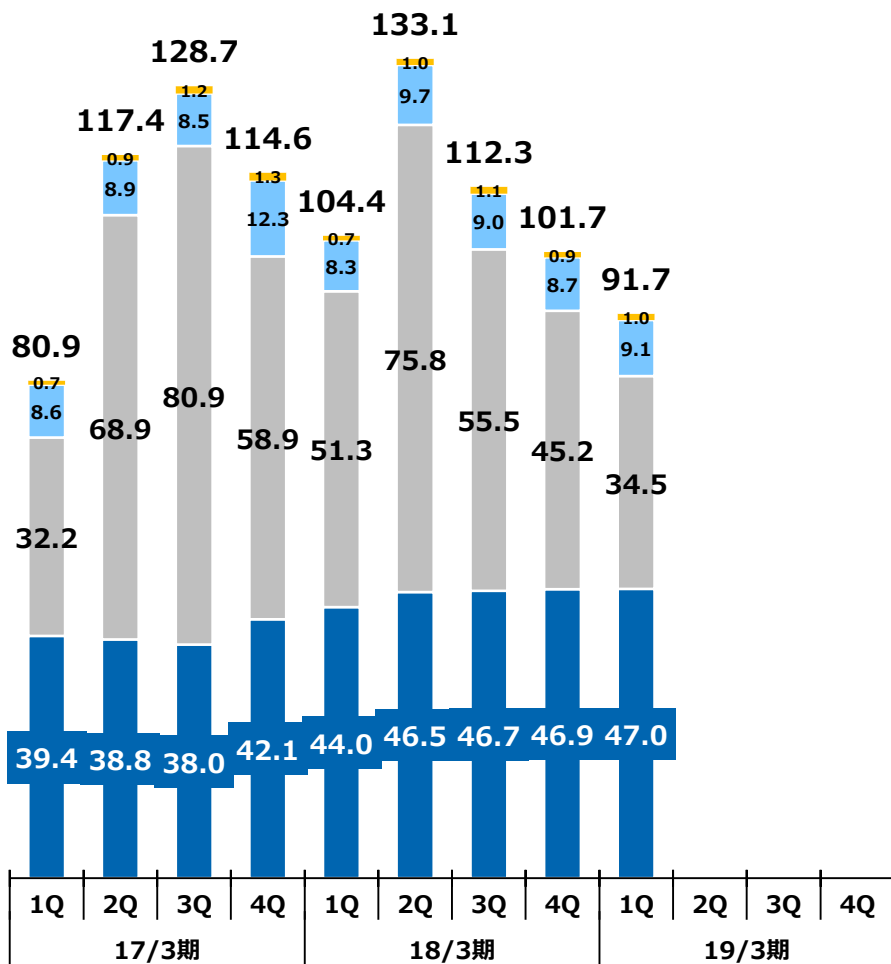
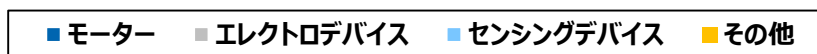
売上高 (10億円)



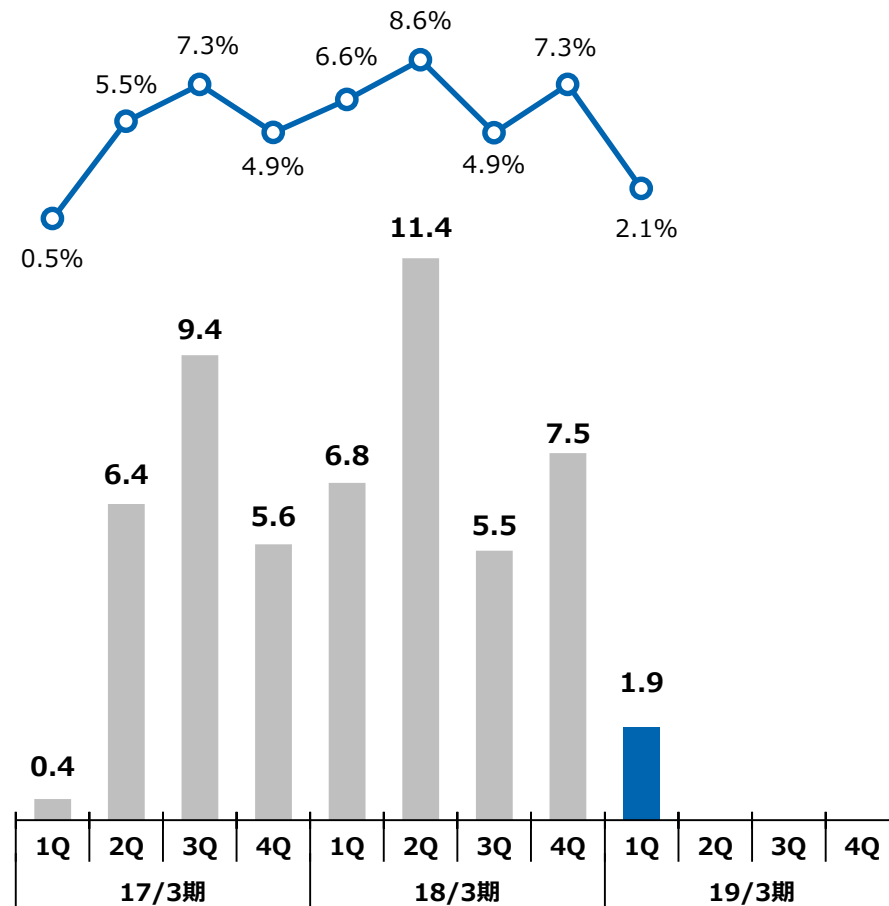
営業利益 (10億円)



売上高 (10億円)

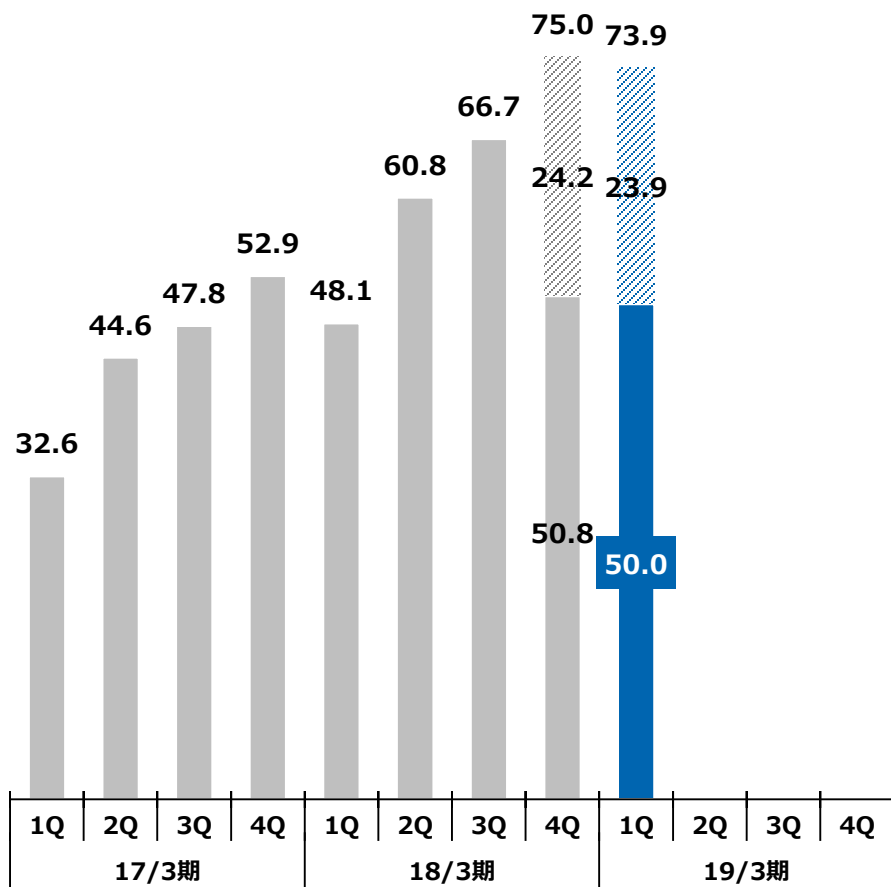


営業利益 (10億円)

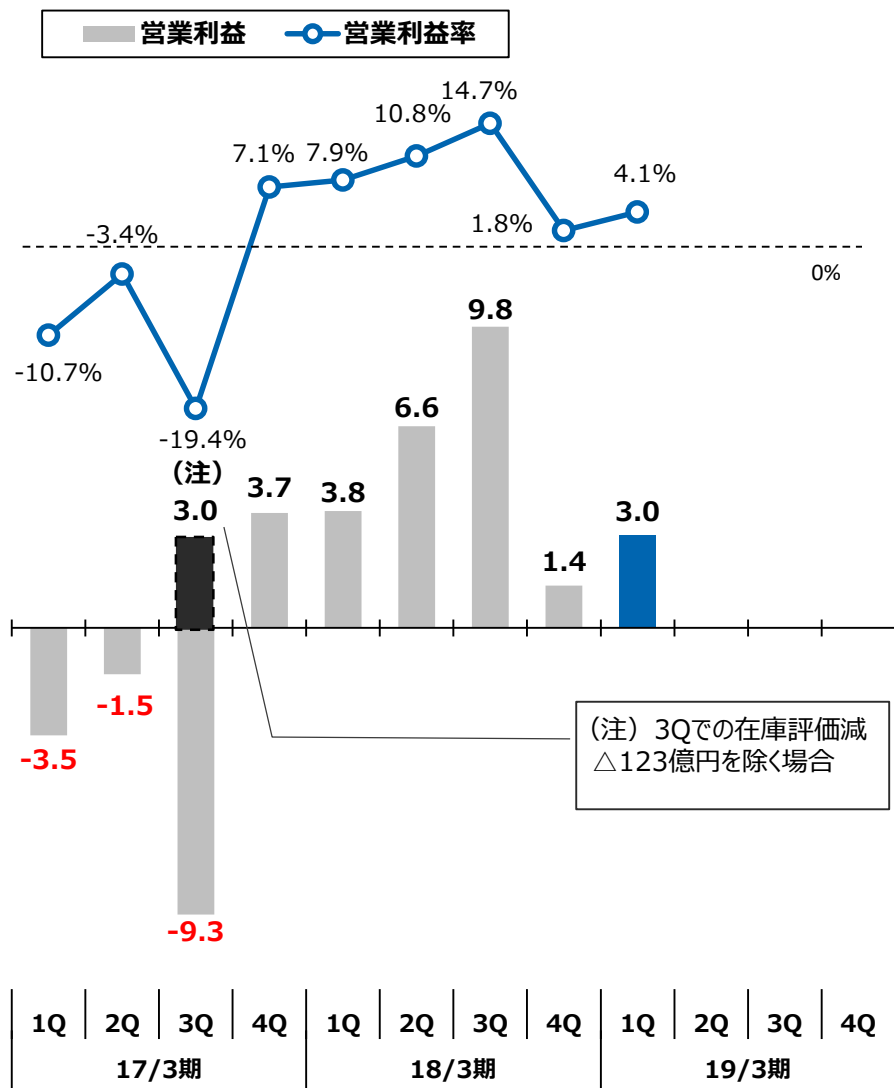


売上高 (10億円)

※ 契約変更に伴う売上高計上金額の増加



営業利益 (10億円)



(注) 3Qでの在庫評価減
△123億円を除く場合

通期業績予想を上方修正

[IFRS]

(百万円)	2018年3月期	2019年3月期			
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	881,413	453,800	486,200	940,000	+6.6%
営業利益	68,902	34,000	51,000	85,000	+23.4%
税引前利益	66,855	33,500	50,500	84,000	+25.6%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	50,326	26,300	39,700	66,000	+31.1%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	119.61	62.70	94.64	157.34	+31.5%

為替レート	18/3期 通期	19/3期 2Q-4Q想定
US\$	111.19円	105.00円
ユーロ	129.36円	130.00円
タイバーツ	3.35円	3.39円
人民元	16.70円	16.90円

[IFRS]

(百万円)	2018年3月期 通期	2019年3月期			
		上半期	下半期	通期	前期比
売上高	881,413	453,800	486,200	940,000	+6.6%
機械加工品	176,427	94,500	95,500	190,000	+7.7%
電子機器	451,879	174,400	225,600	400,000	-11.5%
ミツミ事業	252,415	184,400	164,600	349,000	+38.3%
その他	693	500	500	1,000	+44.3%
営業利益	68,902	34,000	51,000	85,000	+23.4%
機械加工品	41,007	24,000	25,500	49,500	+20.7%
電子機器	24,096	6,400	19,600	26,000	+7.9%
ミツミ事業	20,069	11,000	15,000	26,000	+29.6%
その他	△806	△300	△200	△500	-38.0%
調整額	△15,463	△7,100	△8,900	△16,000	+3.5%

利益分配の方針

中期事業計画に基づいて創出されるフリーキャッシュフローは、国内外のM&Aを含む**成長投資を最優先**する一方で、株主還元については**配当性向20%程度**を目途とした安定的な配当を目指す。また、成長投資とのバランスに鑑みた**機動的な自己株式の取得**も検討し、資本効率の向上をはかる。

今期配当予想

配当性向20%程度を目途に決定

「MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)」への組み入れ



2018 Constituent
MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)

女性活躍推進法により開示される女性雇用に関するデータおよび企業の開示情報から、MSCI社が多面的にスコアを算出し、各業種の中で女性の活躍が認められる企業を選定する。

年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF) が日本株のESG投資に採用した指数のひとつ。

「統合報告書2018」の発行 (予定)

～当社の中長期の成長戦略や価値創造ストーリーのご説明ツールとして～

経営方針と目標

Passion to Create Value through Difference

常識を超えた「違い」で新しい価値をつくる

売上高 1兆円
and/or
営業利益 1,000億円

営業利益率 10%

ROE 15%以上

価値創造ストーリーの詳細

当社の価値創造ストーリー

コア事業の強化 × 多角化の二ツチ (本株) × 相対してシナジー創出 = ミネベアミツミの持続的成長

強さを支える非財務資本

知的資本: 経営理念と目標、製品・サービス、技術力、人材、顧客関係、M&A (買収) などの強化

人的資本: コーポレート文化、女性の活躍、新事業・ビジネスモデルの開発

製品資本: 多岐にわたる事業分野での強固な地位、先進的な技術力、グローバル展開、顧客との深い関係性

財務資本: 多岐にわたる事業分野での強固な地位、先進的な技術力、グローバル展開、顧客との深い関係性

価値創造ストーリー

強さを支える非財務資本

知的資本: 経営理念と目標、製品・サービス、技術力、人材、顧客関係、M&A (買収) などの強化

人的資本: コーポレート文化、女性の活躍、新事業・ビジネスモデルの開発

製品資本: 多岐にわたる事業分野での強固な地位、先進的な技術力、グローバル展開、顧客との深い関係性

財務資本: 多岐にわたる事業分野での強固な地位、先進的な技術力、グローバル展開、顧客との深い関係性

価値創造ストーリー

強さを支える非財務資本

知的資本: 経営理念と目標、製品・サービス、技術力、人材、顧客関係、M&A (買収) などの強化

人的資本: コーポレート文化、女性の活躍、新事業・ビジネスモデルの開発

製品資本: 多岐にわたる事業分野での強固な地位、先進的な技術力、グローバル展開、顧客との深い関係性

財務資本: 多岐にわたる事業分野での強固な地位、先進的な技術力、グローバル展開、顧客との深い関係性

ESG - 社会にとってなくてはならない会社を目指して

エネルギー消費の低減等に資する各種製品を通じて
事業による環境・社会への貢献をおこなってまいります

ESG - 社会にとってなくてはならない会社を目指して

エネルギー消費の低減等に資する各種製品を通じて
事業による環境・社会への貢献をおこなってまいります

ESG - 社会にとってなくてはならない会社を目指して

エネルギー消費の低減等に資する各種製品を通じて
事業による環境・社会への貢献をおこなってまいります

ESG - 社会にとってなくてはならない会社を目指して

エネルギー消費の低減等に資する各種製品を通じて
事業による環境・社会への貢献をおこなってまいります

本日のポイント

- 全体：1Qは**期初計画を大幅に上回る**好調なスタート。
(前年比の減益は、当初から想定内)
- 機械加工品：ボールベアリングの**生産数 3億個**を達成。
引き続き業績拡大へ。
- 電子機器：LEDバックライトは良好な立ち上がりを予想。
モーターは**引き続き堅調に推移。**
- ミツミ事業：不需要期にも関わらず**順調以上のパフォーマンス。**
生産性向上やコスト削減など、積み上げてきた**構造改革の成果。**
- 市場環境の不透明さから、営業利益1Q過達分の半分を
今期営業利益の計画に反映して上方修正

1Qは極めて順調なスタート

ボールベアリング事業

- 外販は7月に過去最高を更新！

1Qは **23** 四半期連続でYoY増加

かつ **5** 四半期連続でQoQ増加

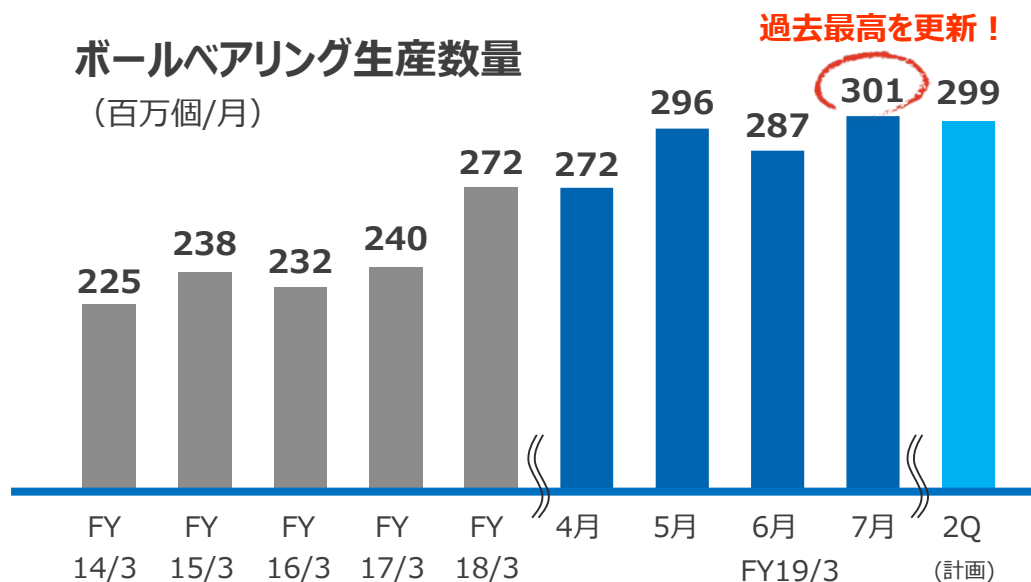
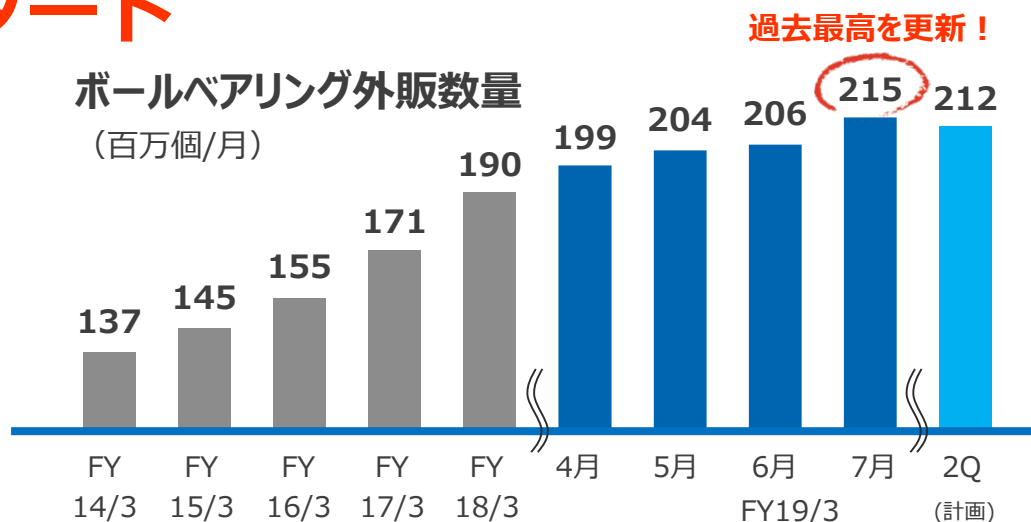
- 生産は7月に**3億個**達成！

来期 **3億1,500万個**へ

- 在庫は今後は適正水準に向かい一過性費用は下半期より減少へ
- 価格改定は3Qから一部反映へ

ロッドエンド・ファスナー事業

- **ファスナー**の収益改善に確かな手ごたえ



LEDバックライトは良好な立ち上がりを予想 モーターは引き続き堅調に推移

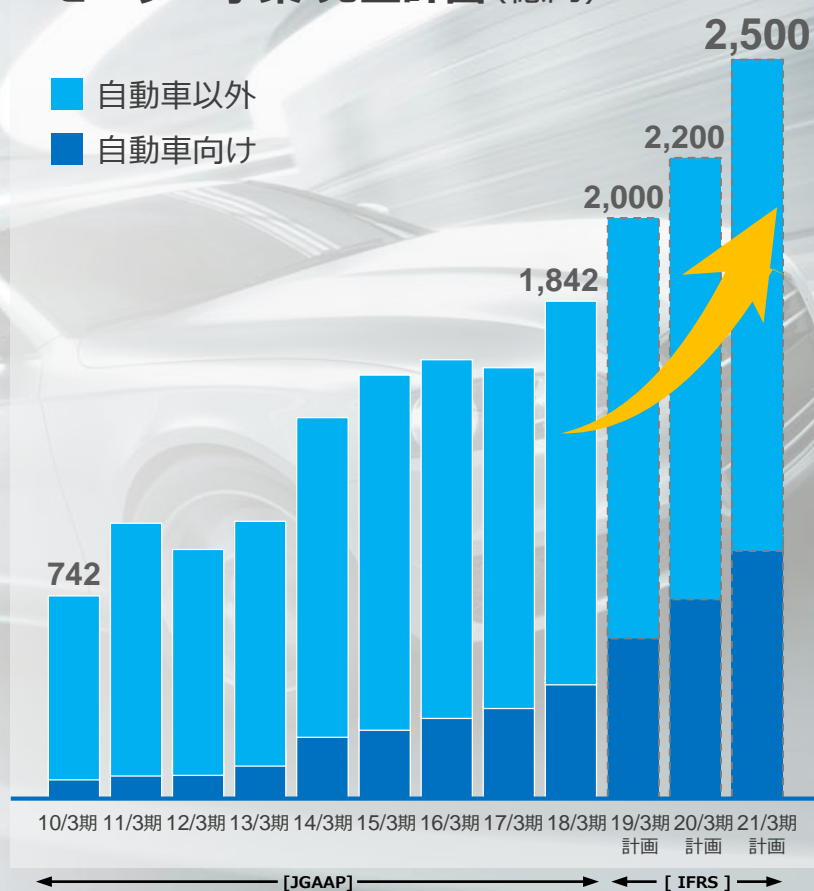
LEDバックライト事業

- 今期モデルは技術的難易度が高いが 良好な立ち上がりを予想
- 収益見通しは、引き続き 保守的に想定
- 来期以降も、確かな事業機会が継続と予想
- 有機EL対抗ディスプレイの開発は サプライチェーンで実施中

モーター事業

- モーターは 自動車を中心に引き続き堅調に推移
- スロバキア工場が稼働スタート

モーター事業 売上計画 (億円)



1Qは不需求期ながらも利益は大きくアウトパフォーム 通期業績予想は引き続き保守的に想定

光デバイス事業

- 新機種向けはきわめて良好な立ち上がり
(品質、歩留まりとも想定と大きな変化なし)
- 中国スマホもスペックアップで力強い事業機会

機構部品事業

- 1Q収益は想定を大きく上回る
- 2Q以降は本格的な需要期へ



參考資料

2018年3月期 JGAAPとIFRSの差異

(10億円)

営業利益

79.2

△3.0

△2.5

+0.5

+1.2

△6.5

68.9

JGAAP

その他
会計基準差異

従業員持株会
公正価値評価

売上基準
変更

のれん償却費
戻し入れ

営業外/特別
利益・損失
から組替

IFRS

△10.3

親会社の所有者に
帰属する
当期利益

59.4

△10.3

△4.3

△1.0

+6.5

50.3

JGAAP

営業利益
差異

繰延税金資産
認識差異

その他
会計基準差異

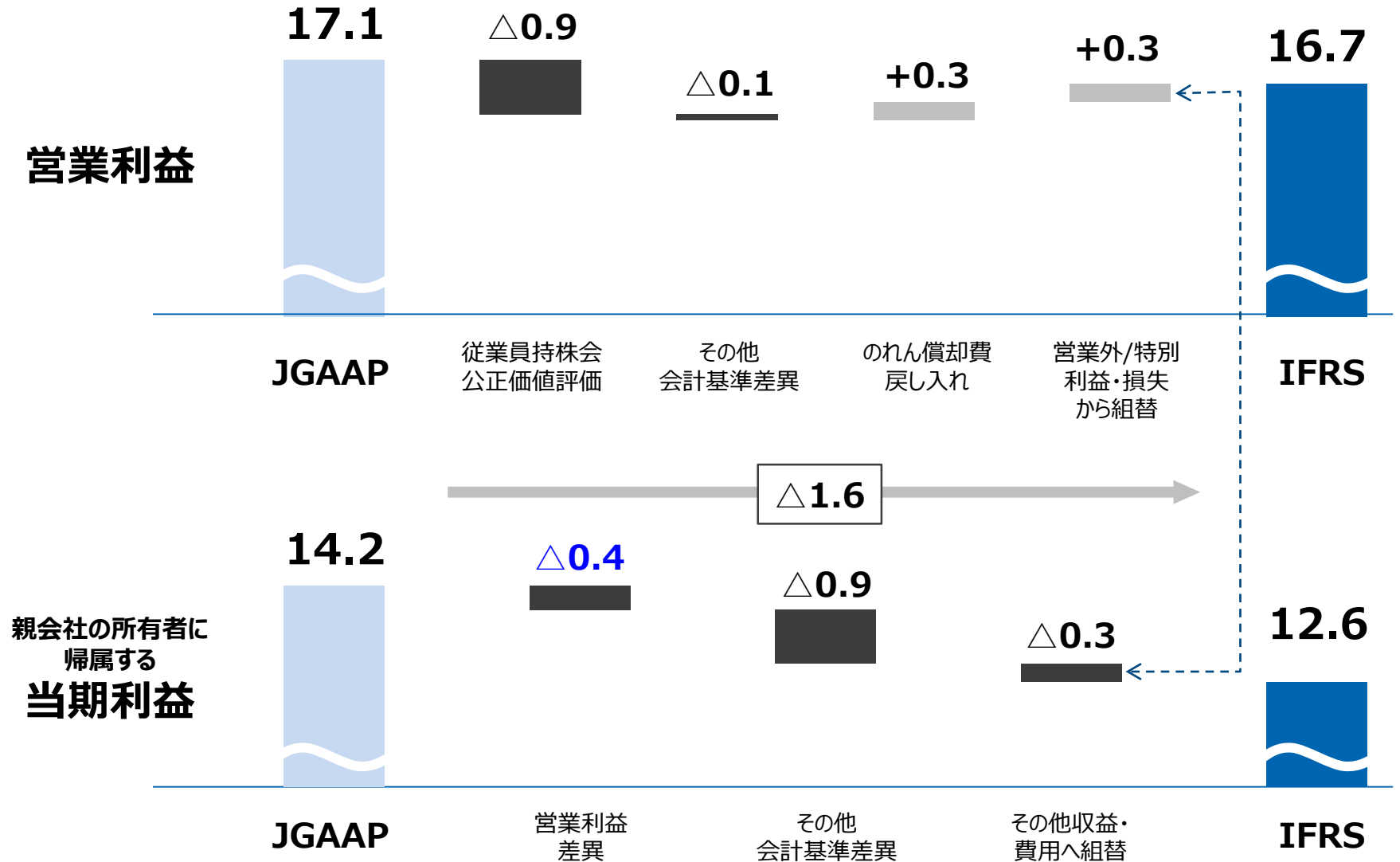
その他収益・
費用へ組替

IFRS

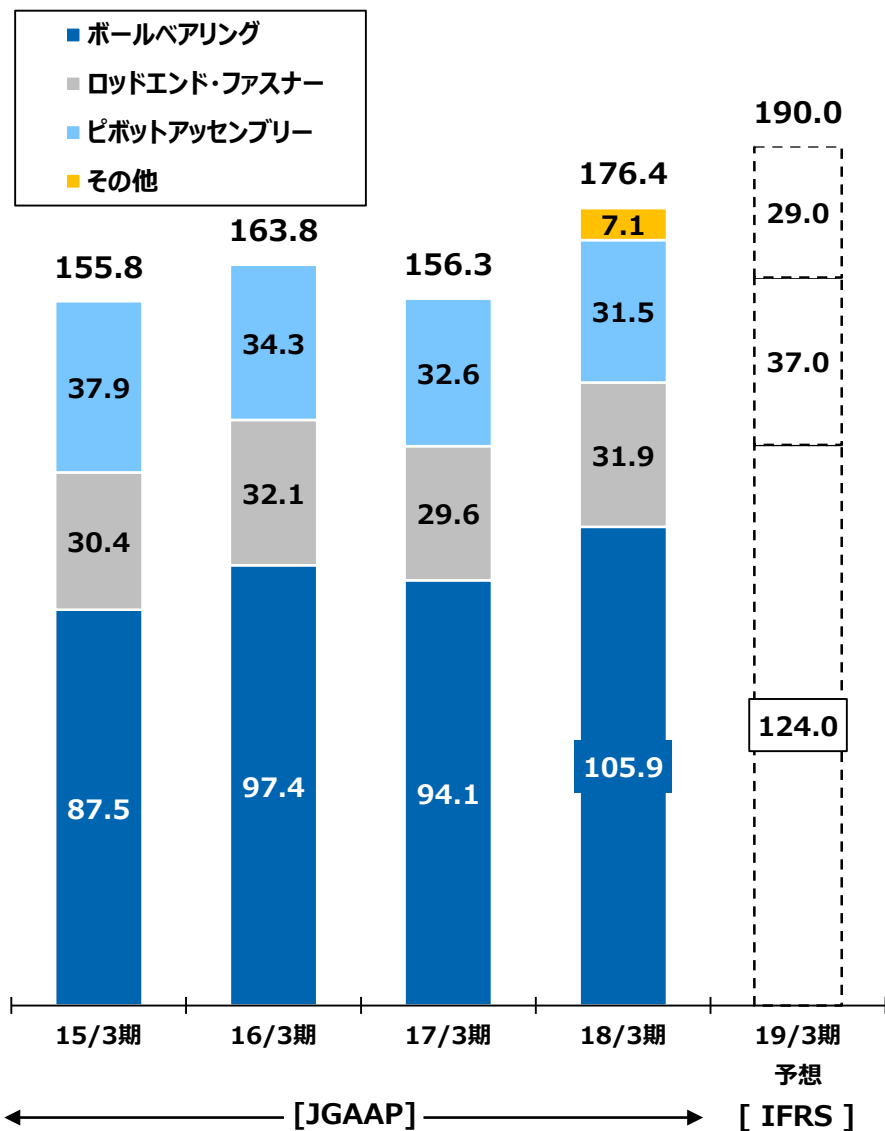
△9.1

2018年3月期 第1四半期 JGAAPとIFRSの差異

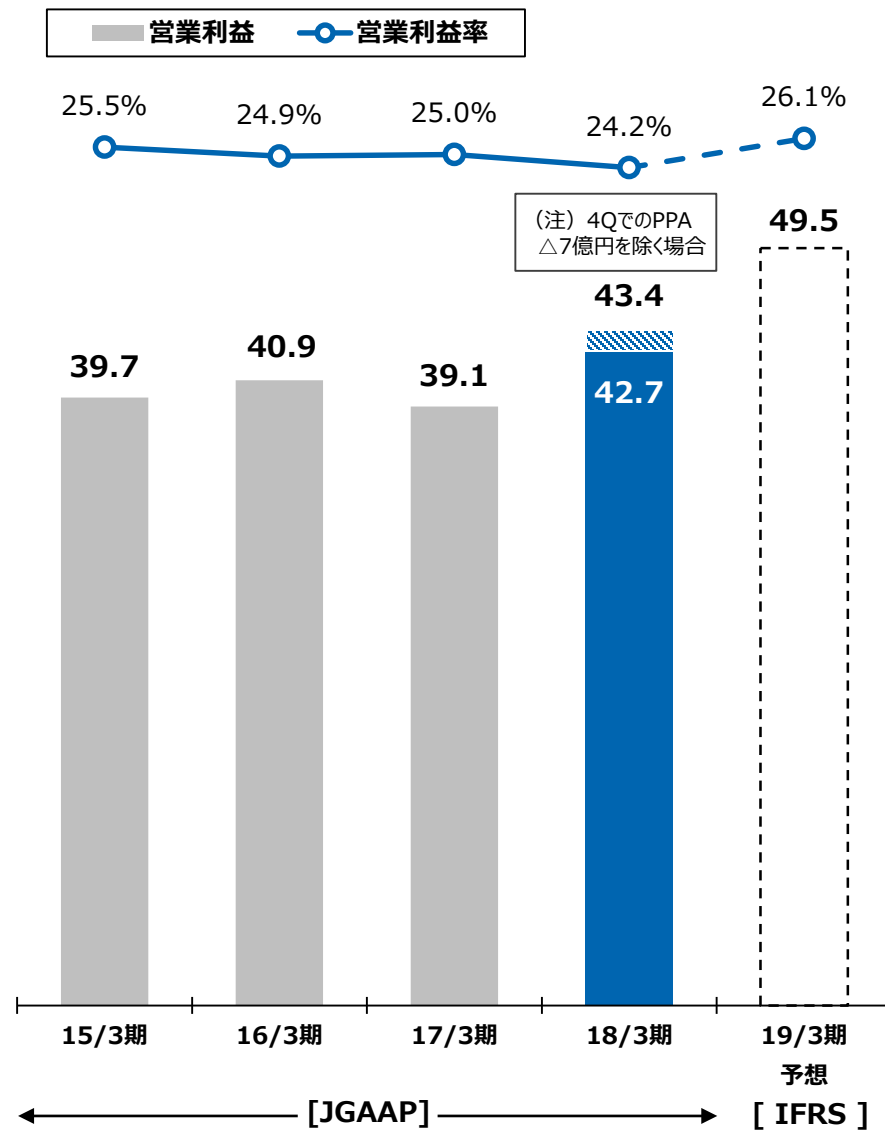
(10億円)



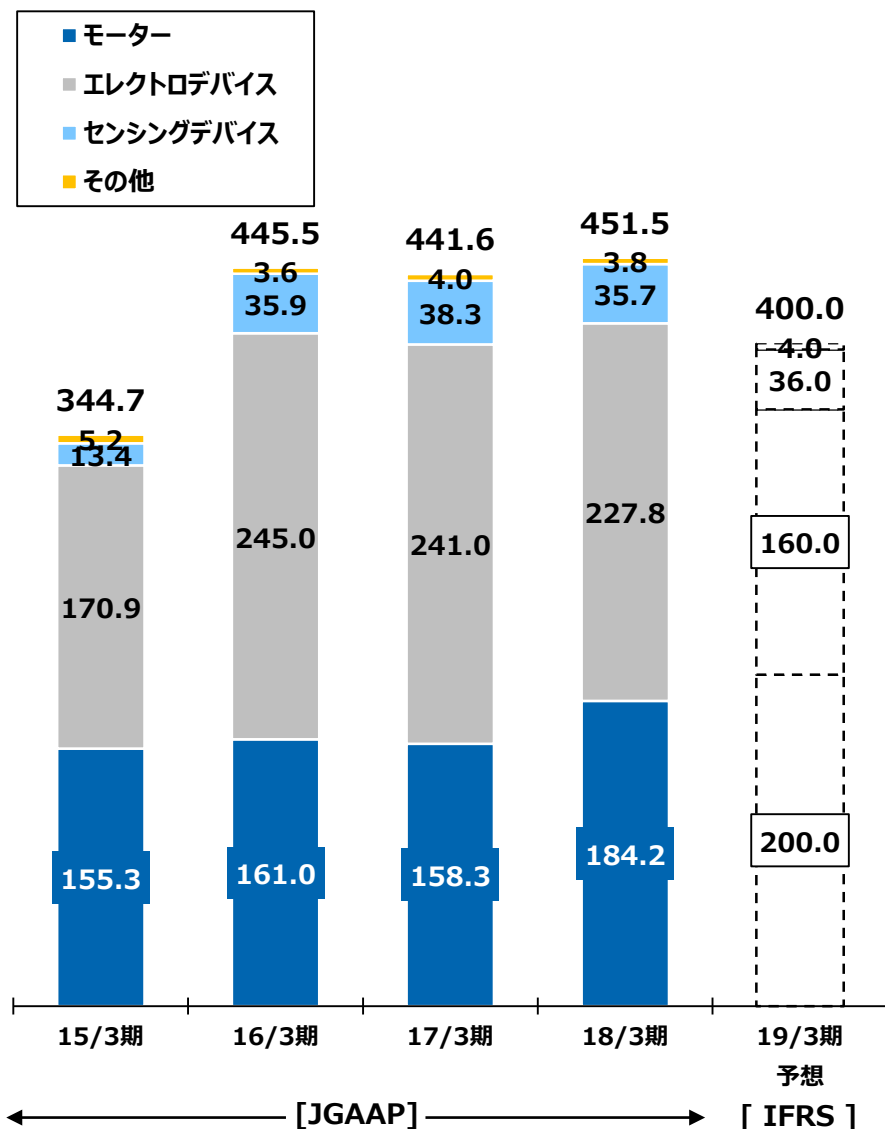
売上高 (10億円)



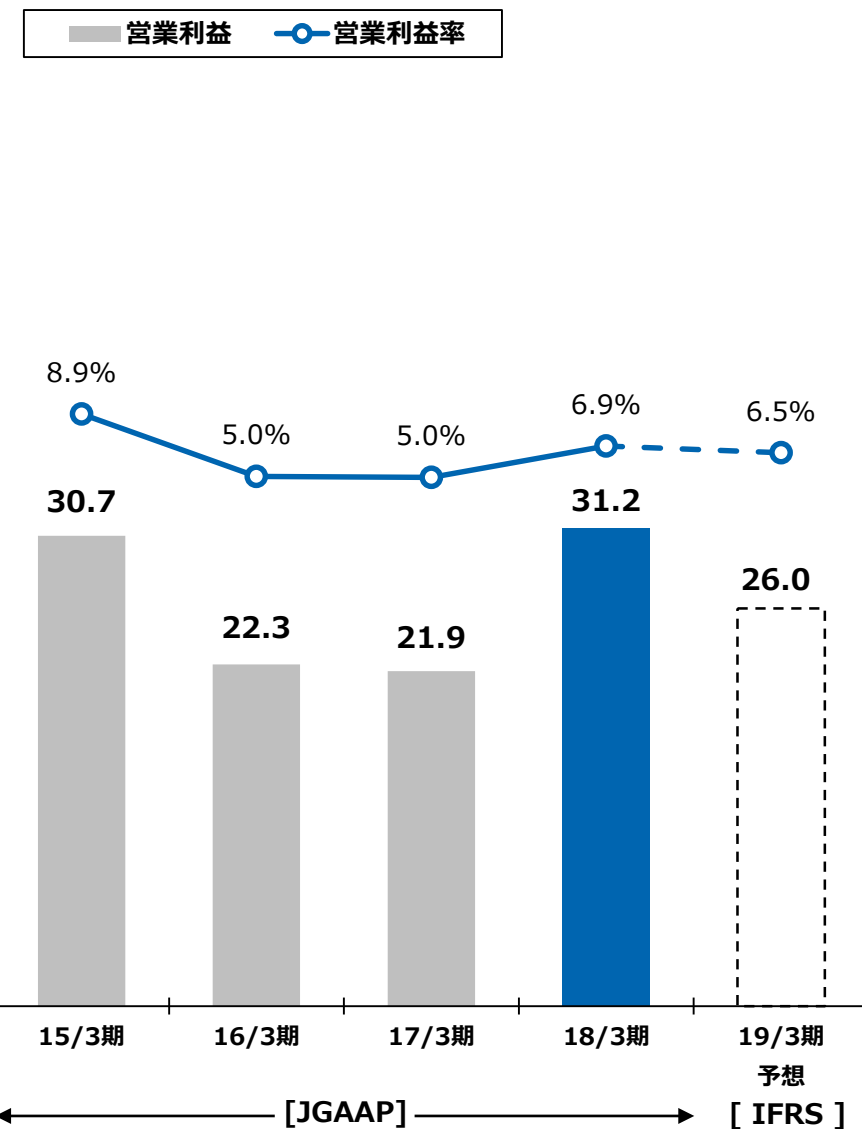
営業利益 (10億円)



売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)

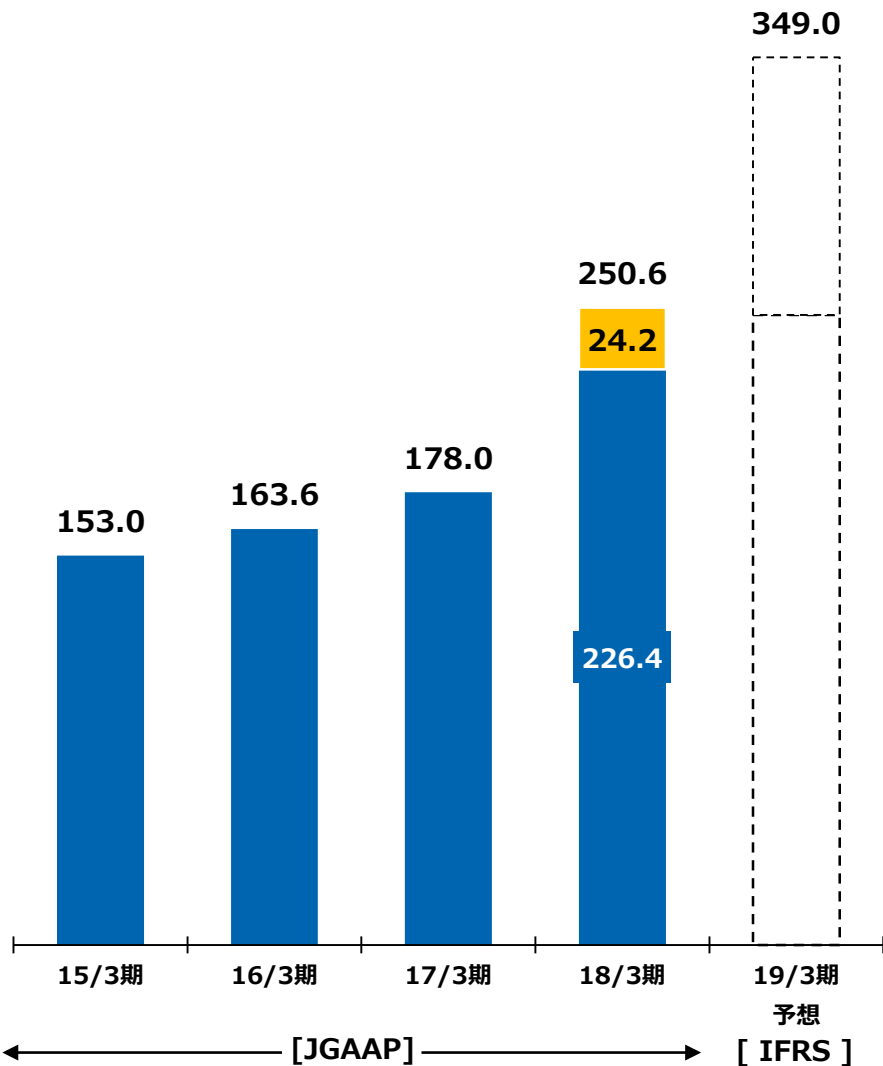


ミツミ事業セグメント (含む統合前)

売上高、営業利益ともに、17/3期3Qまでは、経営統合前。
17/3期4Qは3ヶ月分の管理会計ベース。18/3期以前はJGAAP

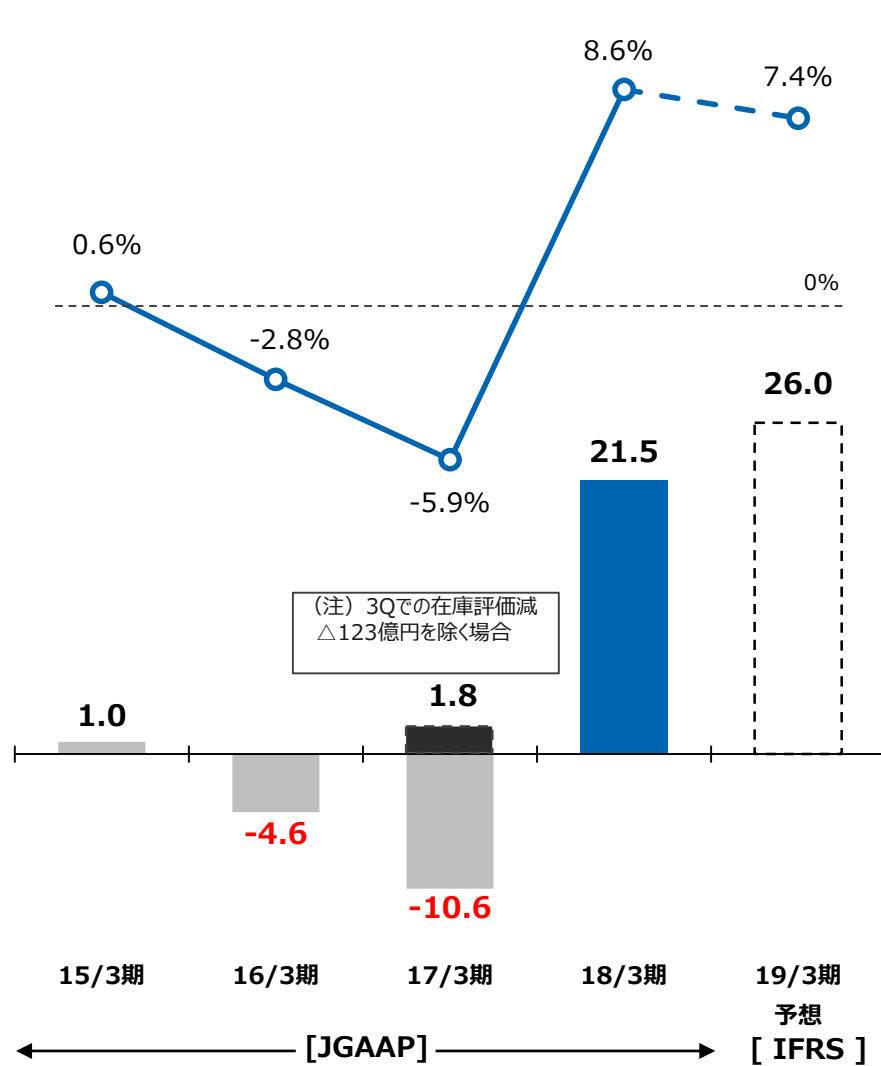
売上高 (10億円)

■ 契約変更に伴う売上高計上金額の増加

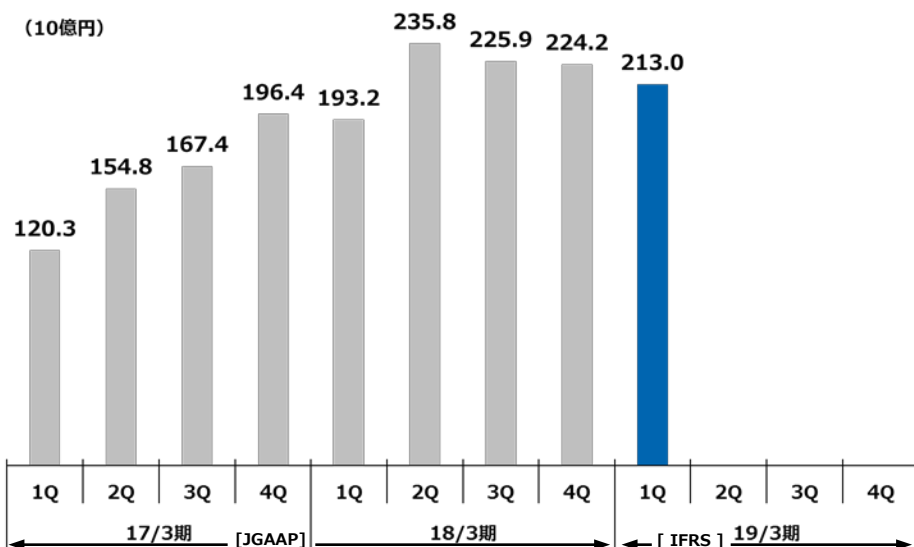


営業利益 (10億円)

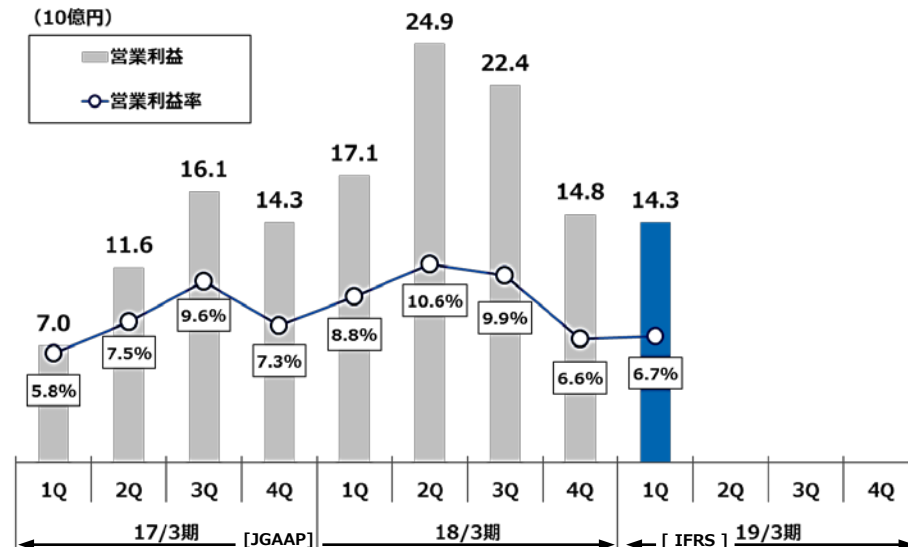
■ 営業利益 ○ 営業利益率



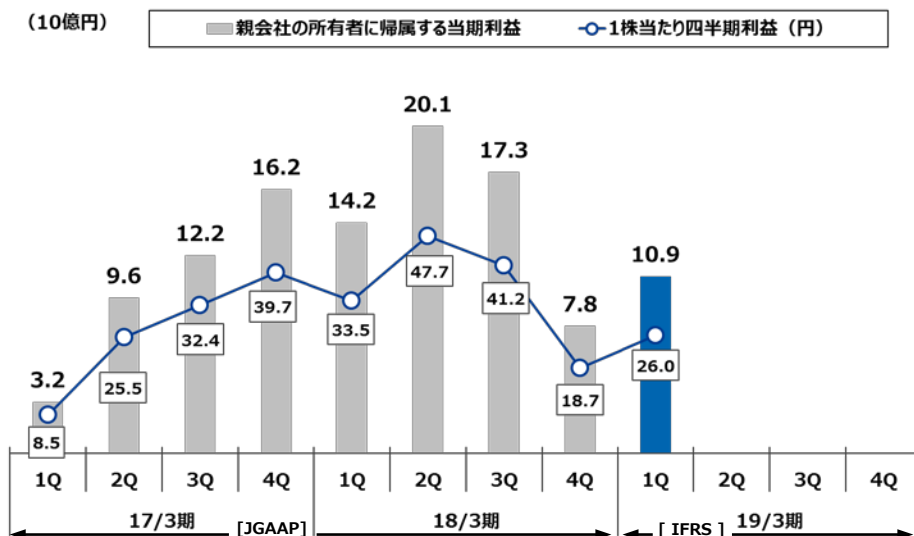
売上高



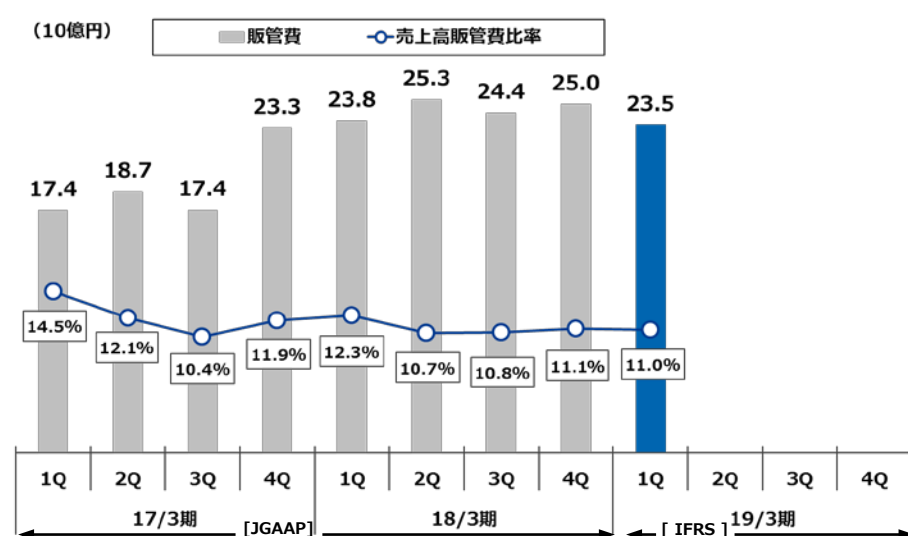
営業利益、営業利益率



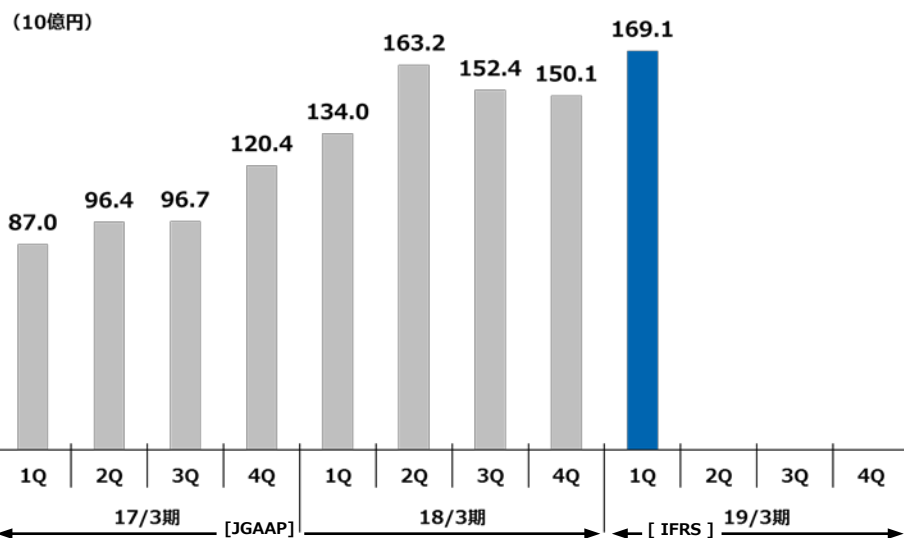
親会社の所有者に帰属する当期純利益、1株当たり当期純利益



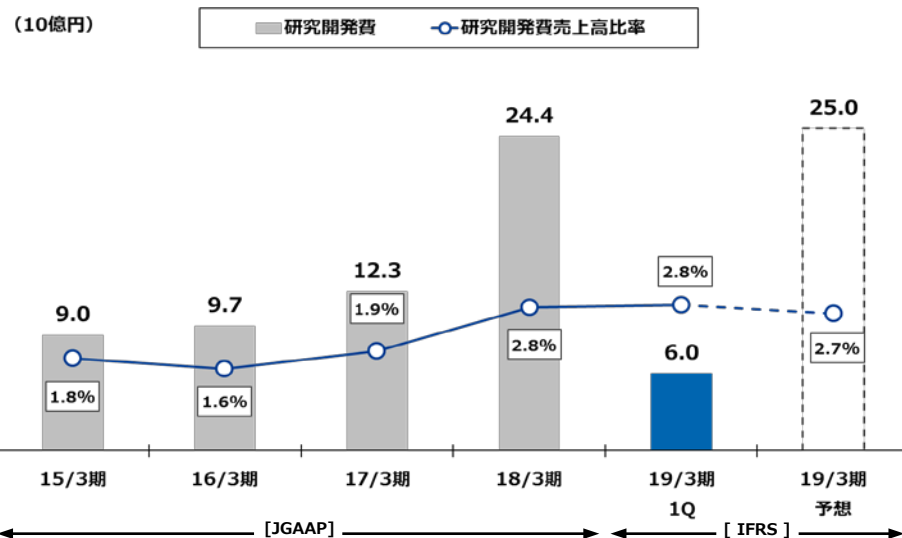
販管費、売上高販管費比率



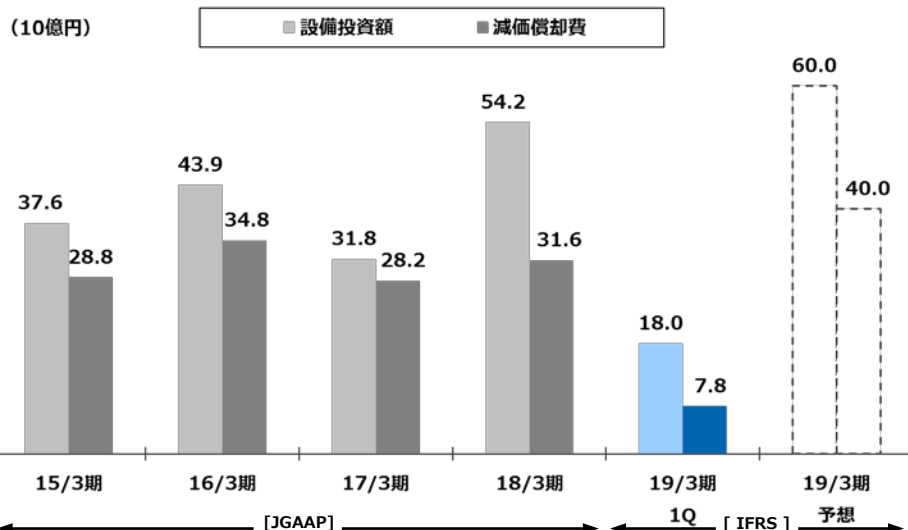
棚卸資産



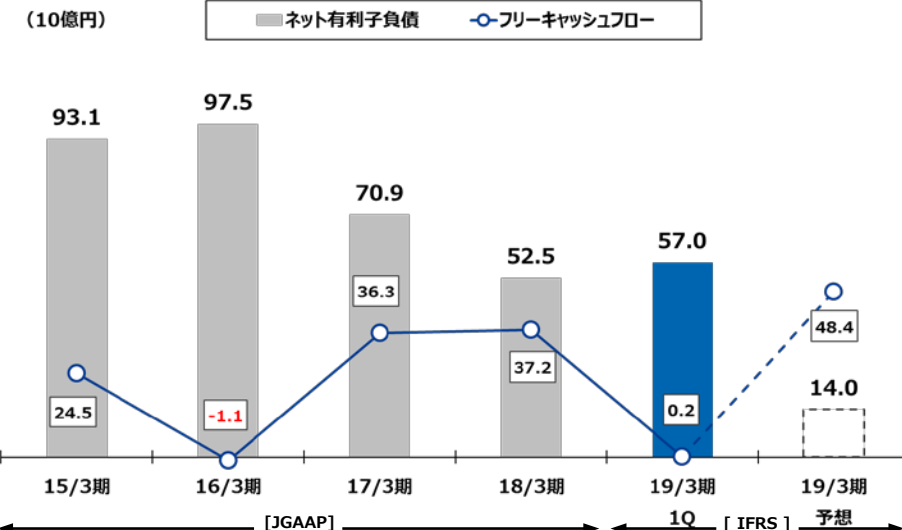
研究開発費、対売上高比率



設備投資額、減価償却費



ネット有利子負債、フリーキャッシュフロー

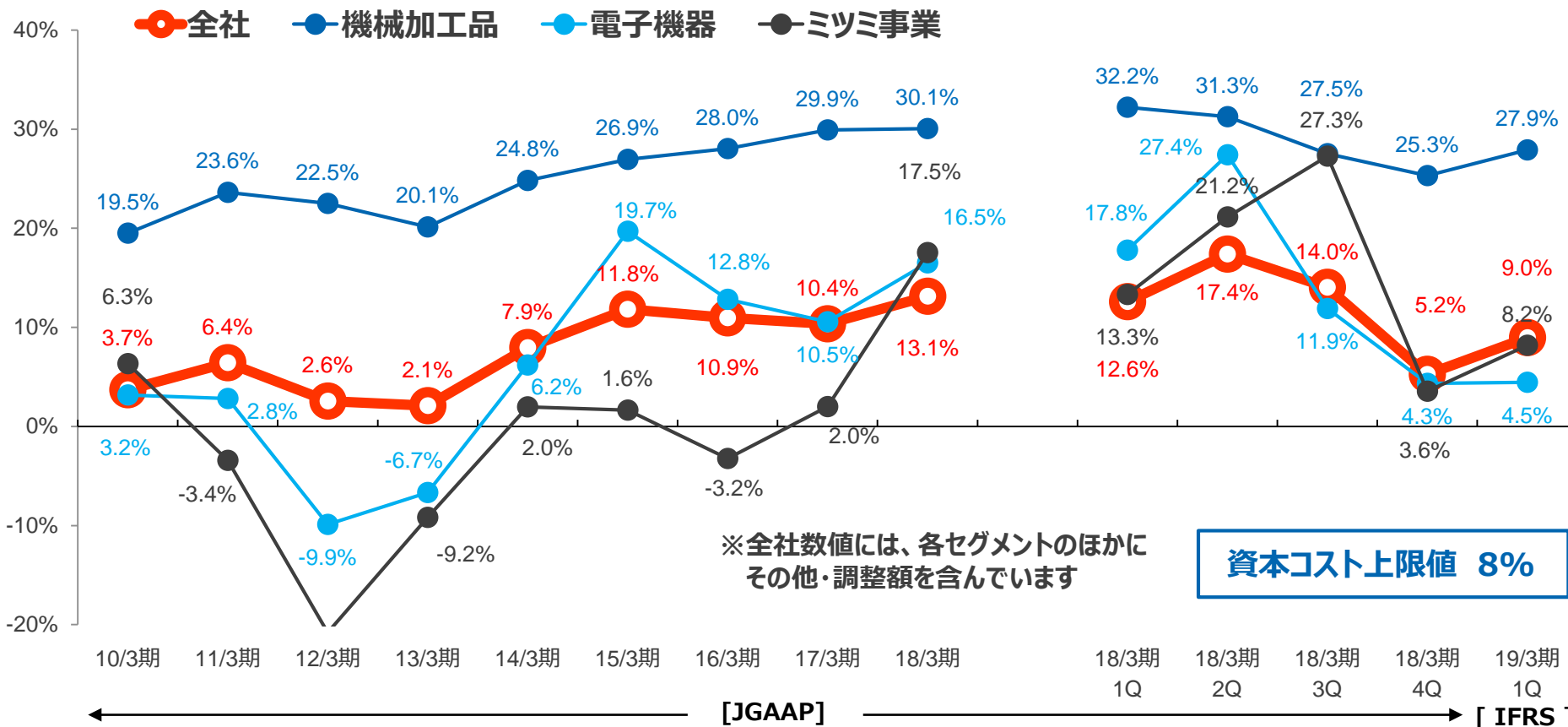


ミネベアミツミ版
ROIC

$$\text{NOPAT (営業利益+特別損益)} \times (1 - \text{税率})$$

$$\text{投下資本 (受取手形+売掛金+たな卸資産+固定資産-支払手形-買掛金)}$$

セグメント別で管理できる事業資産 (売上債権・債務、棚卸資産、固定資産) で算出





上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。